岡本綺堂略年譜

岡本綺堂 編

年代	年齢	岡本綺堂	国内外動向
明治5	0	10月15日（新暦11月15日、父 敬之助（後に敬助）、母 俊野の長男として東京高輪泉岳寺前に生まれる。本名、敬二。父は一二〇石取りの尾州藩士で、維新後は東京府に出仕して会計官に勤める。姉妹は二つ違いの姉が1人いる。	
明治6	1	公債証書が額面取引、移転するのに従い、岡本家も転居、飯田町二谷小路坂にあった某旗本の古屋敷を借りて住む。	
明治7	2	三～四歳前後の男に手まりやかるたなどを与えて保護させる。	
明治8	3	麻布にかわり住居に指定されて、市内の屋敷に移転。後に焼けた旧邸宅近所にて有名な化物数珠屋敷があった。	
明治9	4	3月、麻布にかわり住居に指定されて、市内の屋敷に移転。後に焼けた旧邸宅近所にて有名な化物数珠屋敷があった。	
明治10	5	館も麻町五番町に転居し、同年家塾を麹町区元園町一丁目十九番地に設立し、父から、『三字経』の素読を学ぶ。	
明治11	6	春、近所の友人の家屋の類焼に、後に焼けた旧邸宅近所にて有名な化物数珠屋敷があった。	
明治12	7	7月、小学校卒業。昨年以来の東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治13	8	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治14	9	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治15	10	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治16	11	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治17	12	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治18	13	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治19	14	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治20	15	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治21	16	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治22	17	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治23	18	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治24	19	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治25	20	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治26	21	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治27	22	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治28	23	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治29	24	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治30	25	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治31	26	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治32	27	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治33	28	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治34	29	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治35	30	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治36	31	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治37	32	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治38	33	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治39	34	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治40	35	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治41	36	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治42	37	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治43	38	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
明治44	39	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正元	40	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正2	41	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正3	42	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正4	43	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正5	44	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正6	45	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正7	46	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正8	47	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正9	48	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正10	49	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正11	50	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正12	51	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正13	52	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正14	53	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
大正15 昭和元	54	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和2	55	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和3	56	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和4	57	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和5	58	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和6	59	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和7	60	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和8	61	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和9	62	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和10	63	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和11	64	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和12	65	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和13	66	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	
昭和14	67	父の勧めで東京日報社社長の福地源一郎（桜痴）の推薦により、『東京日報』の編集長となった。（後に同紙廃刊。）	

参考資料

- 綺堂座談（岡田八雲 編著『舞臺』第十五年十一號（舞臺社、一九三二））
- 岡本綺堂年譜（岡田八雲 編著『舞臺』第十五年第十一號（舞臺社、一九三二））
- 岡本綺堂 人と作品（岡田八雲 著（清水弘文堂、一九六八））
- 岡本綺堂 年譜（岡田八雲 著（岩波書店、一九七七））
- 岡本綺堂 編 『岡本綺堂日記』（岩波書店、一九八七）
- 岡本綺堂 編 『岡本綺堂日記』（岩波書店、一九九一）
- 岡本綺堂 編 『岡本綺堂日記』（岩波書店、一九九七）
- 西口徹編 『KENKOU市郷土ブック文献別目録 綺堂年譜』（市川市郷土博物館、二〇〇四）

二〇二二年　勝央美術文学館作成